

天気のカタ

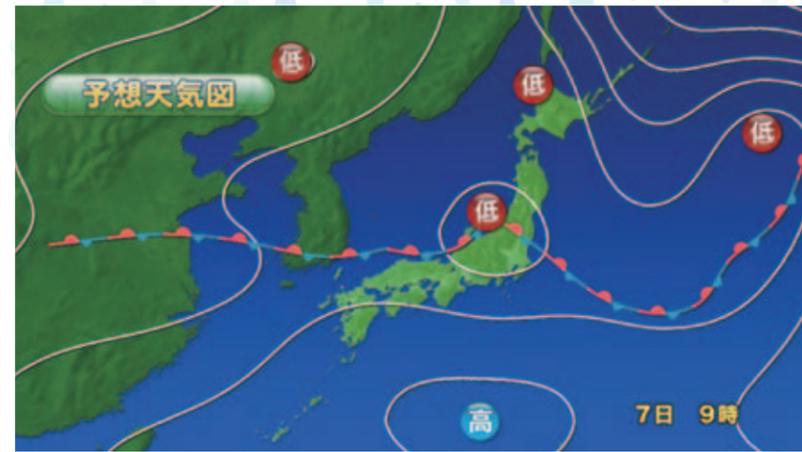
気象キャスターが解説!

線状降水帯



やまね おさむ
山根 収

TSKさんいん中央テレビ アナウンサー・気象予報士 ニュースキャスターやスポーツ実況、番組ディレクターなど幅広い業務を担当 鳥根県隠岐の島町出身 海に囲まれた離島の自然豊かな場所で生まれ育ち 動植物などに興味・関心を抱きながら過ごす。広島大学卒業後、地元・鳥根県の民放テレビ局に入社 気象災害取材や中継などが気象予報士取得の契機に。放送を通じて鳥根・鳥取の豊かな自然の発信もめざす。



7月7日の天気図



7月7日 松江市出雲町



7月7日 冠水した松江市

顕著な大雨に関する情報

季節が夏から秋に移り変わる中、気を付けたのが秋雨前線や台風による被害です。今年は梅雨前線による大雨で、静岡県熱海市で大規模土砂災害が発生し被害をもたらしたほか、鳥根県と鳥取県でも七月七日から十二日にかけて豪雨となり、広い範囲で被害が発生しました。このうち七日の豪雨は線状降水帯によるものでした。

気象庁が今年六月から運用を開始した「顕著な大雨に関する情報」。線状降水帯による土砂災害や洪水災害の危険度が急激に高まった場合に発表する情報で、七月七日に鳥根県と鳥取県に運用開始後では初めて発表されました。梅雨前線が山陰沖に停滞して発達した雨雲が発生したことで、記録的



7月7日 鳥根県にかかった線状降水帯



7月7日 増水した意宇川(松江市)



7月12日 冠水した鳥根県雲南市



7月7日 土砂が流入した線路(出雲市)

避難情報に関する

ガイドラインの改定

今年五月に施行された「避難情報に関するガイドライン」。二〇一九年の台風十九号等による災害の経験を踏まえて改定されました。従来の避難情報よりわかりやすくすることで、逃げ遅れがないように避難を促すのが目的です。レベル3は「高齢者等避難」に、レベル4は「避難指示」となり、従来の避難準備、避難勧告は廃止されました。そしてレベル5の「緊急安全確保」という名称への変更。レベル5が発表された場合、自宅や近隣の頑丈な建物などできるだけ身近で安全な場所を「確保」することが求められます。

今回の豪雨では、七日に松江市、八日に鳥取市、十二日には雲南市と飯南町(鳥根県)にいずれも運用後初めてとなる警戒レベル5・緊急避難確保が発表されました。特に十二日に発表された際には、幹線道路となる国道が冠水によって通行止めとなったほか、土砂災害が多発し道路が寸断されたことで孤立集落も発生しました。

住民にとっては、「レベル5」の前の「レベル4」発表までに避難行動をとれたかどうか重要でしたが、未明から早朝にかけて急激に雨雲が発達し大雨となっただけに、「この段階で逃げるのは危険と判断」して「自宅

の安全な場所で避難した」という声も聞かれました。その行動の原点となったのが過去の災害の記憶です。

過去にも多くの災害

鳥根県では幾度となく豪雨災害に見舞われました。主なものは、一九七二年豪雨(死者二十六人)、一九八三年豪雨(死者・行方不明者二〇七人)、近年でも二〇〇六年豪雨(死者・行方不明者五人)、二〇一七年鳥根県西部豪雨(初の大雨特別警戒)、二〇一八年西日本豪雨、二〇二〇年豪雨(江の川氾濫)などが発生しています。いずれも大規模な土砂災害、浸水被害となり、こうした過去の災害の記憶が刻まれている住民が、気象情報に加え過去の教訓も生かして避難行動をとったことで、人的被害を免れました。また過去の豪雨被害を機に計画された斐伊川・神戸川治水事業で、今回は上流のダム、中流部の放水路の効果で下流の水位を低減させたことが報告されています。(国土交通省出雲河川事務所)

過去の経験と最新の気象予報・技術、災害に強い環境整備というソフト・ハードを組み合わせた防災対策を進めたいところです。